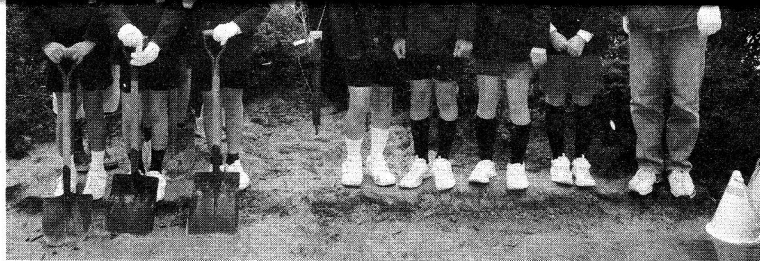


# 周南病院に初の小児科心理外来

## ●周南● 学校不適応にメンタル面から

### 4月、心の悩みを探究、改善

周南市御幸通の周南病院（橋本剛院長）は四月



に小児科を新設するのに伴って、県内で初めての小児科心理外来を併設する。心理士が子どものメンタルケアをすること

で、訴える症状だけでなく心理的サポートで苦しみを受け止め、改善する取り組みが期待されている。

小児科心理外来は疾患の存在がはっきりせず、不登校を含む学校不適応や軽度発達障害など従来の小児科や神経科では対応しきれない子どもを、心理士が知能や性格検査、無意識調査、ゲーム

を中心としたセラピーなどで子どもの話に共感しながら耳を傾けることで保護者と一緒に要因を探し出し、改善する道筋を、再決断療法によるカウンセリングで導き出すもの。この療法は日本で

はまだ珍しいが、アメリカなどでは早くから発達しているという。

山口県は小中学校の不登校児童、生徒千五百人が報告されており、この数は全国でも多いとされる。心理外来の開設は沼田光生理事長が五年前に

東京で再決断療法でカウンセリングしていたメンタルサポート研究所の代表、倉成央さんと出会ったのがきっかけで実現した。

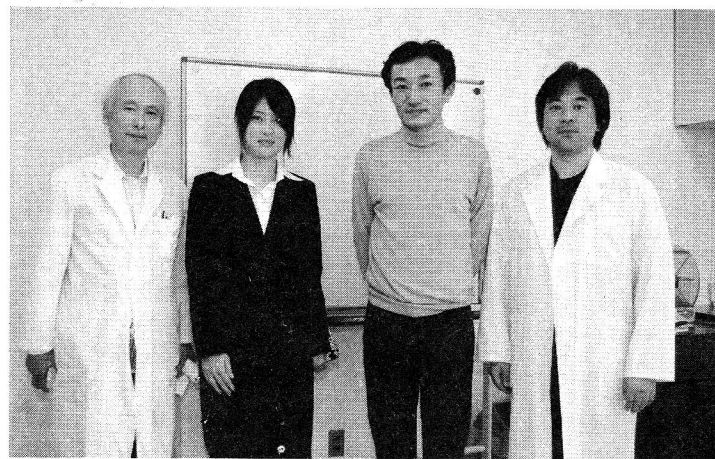
沼田理事長は「周南にはたくさん心の悩みを抱えている子ども、そしてその苦しみとともに戦っている親御さんがいる。病院を、家族を含めて心の苦しみ、悩みを聴き取り、疾患だけでなく心身ともに健康にしたい」と話している。

倉田さんは東京と福岡で再決断療法のトレーニングを開いており、九州女子大学と埼玉農業大学の非常勤講師も務めている。

四月から同病院に派遣される心理士は法政大学文学部心理学科から心理学では全国でも進んでいる宇部フロンティア大学大学院人間科学研究科臨床心理学教室で学んでいる受田恵理さん(23)。同病院は学校不適応児

や不登校児たちに院内学級を週一回開くなどの取り組みをし、小児科だけでなく、認知症患者のカウンセリングや企業単位のメンタルヘルス予防のメールサービスも始める。

院内学級は東京では出席扱いにする学校もあり、同病院は学校との連携も深めていきたいとしている。同病院の電話は0834・21・0357。



左から橋本院長、受田さん、倉成代表、沼田理事長

反容疑で逮捕され、密約問題は棚上げされた形でスカンダルだけが先行して毎日新聞は大打撃を受け、当時、秋市で勤務していた、つらかったことをよく覚えていた。

以来、そんな密約は存在しなかったという歴史政府のやり押しは続き、西山さんは会社をやめ、我々は毎日新聞が西山さんを守らなかつたことが不満だったものだ。

この軽重から言えば問題にならないほど重要な密約に焦点を合わせて大々的に報道すればいいのに、と思ったのだが、庶民感情が女性問題への反発に集中したため、密約問題はうやむやになつてしまったのだ。

▼検察の「女性事務官と情を通じ」の発表が狙い通りの効果を上げたところに国家権力の恐ろしさを感じたものだったが、二年前の西山国家賠償訴訟で東京地裁は門前払い同様の判決で逃げた。

しかし、今回の報告で密約の存在がはっきりした以上、真実に迫って罪に問われた同記者の名譽を回復させることを、先輩の一人として実現を願うばかりだ。(隆)